

# 図書館だより



no.225

2020(令和2)年7月24日発行

編集・発行 福島県立図書館

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

Te1 024-535-3218

Fax 024-536-4787

<https://www.library.fks.ed.jp/>



## 図書館イベント情報

### ・【講演会】朝河貫一の歴史学の現代的意義 —「日欧比較封建制」から「日本人の国民性」の分析へ—

日時：8月10日(月・祝) 14時～15時30分(13時30分開場)

会場：県立図書館 講堂

講師：甚野尚志氏(早稲田大学文学学術院教授)

内容：ふくしまが生んだ世界的歴史学者・朝河貫一博士がアメリカ・イエール大学で成し遂げた歴史学の不滅の業績と、書簡で発信した戦争回避へのメッセージについてお話しいただきます。

その他：入場無料 ※事前の申し込みが必要です(先着100名)。

申込は、県立図書館へ電話(024-535-3218)または来館(貸出・登録カウンター窓口)で受付。

### ・アートなおはなしかい「夏をさがそう！」

日時：8月8日(土) 14時～15時30分

場所：県立図書館、美術館

対象：5才～小学生 8名

※お申し込みが必要です。小学2年生以下は保護者1名の付添いが可能です。

申込先：県立図書館こどものへや(必要事項：名前、年齢、電話番号)【電話】024-535-3218【FAX】024-536-4787

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

- ・マスクの着用をお願いします。
- ・入館時に手指消毒を行ってください。
- ・長時間の滞在はお控えください。



## ブックカートを設置しました

館内にブックカートを設置しました。ご家族でたくさん本を借りる時や、重たい本を借りる時など、どなたでもご自由にご利用ください。

- 設置場所(各2台ずつ)
  - ・入口右手コインロッカー前
  - ・軽読書コーナー付近

## ★展示のご案内★ 【期間：7月3日(金)～9月2日(水)】

### ◎企画展

「旅行案内書で巡るむかしの旅と名勝地」

場所：企画展示コーナー

### ◎時事展示

「子どもたちの教科書を見てみよう！」

場所：時事展示コーナー

### ◎ロビー展示

「YA(ヤングアダルト)の本」

場所：ロビー展示コーナー

### ◎本の広場 セレクション展示

・「空模様を読む」

・「今こそ伝えたい命の大切さ 闘病記」

場所：本のひろばセレクション展示コーナー



# 新着案内

各分野の担当者が選んだ、お薦めの新着資料をご紹介します。

## 人文・自然・社会

『伝統ゲーム大事典 子供から大人まであそべる世界の遊戯』 高橋 浩徳／著 朝倉書店 2020.2 781.9/ㄗ 202/

チェスは、世界中で人気の盤上ゲームとして楽しまれています。では、チェスの原型と考えられている盤上ゲームをご存知ですか？本書は、世界中の伝統ゲーム（盤や駒などで遊ぶアナログゲーム）のルールや道具についてまとめられた事典です。伝統ゲームの種類が多さに驚かされる一方で、意外と似ているゲームが多いことにも気付かされます。また、各国の歴史や文化を感じるデザインがなされた盤、駒、サイコロなどにも注目です。

『天変地異はどう語られてきたか 中国・日本・朝鮮・東南アジア』 串田 久治／編著 東方書店 2020.2 220/ㄗ 202

現代のわたしたちと同様、過去のあらゆる時代、あらゆる地域で、人々は災害と向き合ってきました。本書では、歴史学・宗教学・地域学などの研究者らが、日本を始めとしたアジアの諸地域で「天変地異」がどう語られてきたかを紐解いて行きます。災害はできれば遭いたくない恐ろしいものですが、例えば仏教において地震はしばしば「吉祥」として語られるようで、受容する側の立場や意識による違いに驚きます。どう自然災害と向き合っていくか、現代を生きるわたしたちに考える材料をくれる1冊です。

『カメの甲羅はあばら骨 人体で表す動物図鑑』 川崎 悟司／著 SB クリエイティブ 2019.12 481.1/ㄗ 19Z/

人間の鼻がゾウのように長かったら…。そんな想像がリアルにイラスト化された異色の動物図鑑です。人体に置き換えることで様々な動物の体の構造が直感的に理解できます。進化の過程を丁寧にたどり「なぜそうなっているのか」がわかるので、人間も生命の多様なバリエーションの一つであることを改めて感じます。夢に出てきそうな衝撃のイラストが満載された本書ですが、中でも筆者のおすすめは150度も開く口と巨大な牙を持ったカバ人間です。

## 児童・児童図書研究

『戦場の秘密図書館 シリアに残された希望』 マイク・トムソン／著 小国 綾子／編訳 文溪堂 2019.12 010/ト

シリアの内戦で政府軍から包囲され、食糧や医療品が絶たれたダラヤの街。無差別な爆撃が続く中、住民たちの図書館が作られました。設立や運営を担ったのは、主に若者でした。本の貸出以外に、講演会なども開かれました。教育や公平で自由な社会への希望を受け止める、図書館という「場」の力を感じます。原著を児童向けに編訳したのですが、大人の方にもおすすめです。

## 雑誌・新聞

7月15日に第163回芥川賞・直木賞が発表されました。芥川賞は単行本以外でも文学誌に掲載されているものをご覧いただくこともできます。今回の候補作が掲載された文芸誌の最新号をご紹介します。将来の新しい才能を発掘する気持ちで、読んでみるのもオススメです。

『群像』第75巻第8号、2020年8月 Z/905/G1  
特集：初夏短篇特集 / 巻頭新連載「はぐれんぼう」  
青山七恵

→候補作が掲載されたのは2020年2月

『新潮』第117巻第8号、2020年8月 Z/905/S1  
特集：筒井康隆「ジャックポット」 / 新連載 天童荒太「聖都創造」 / 高橋弘希「海がふくれて」

→芥川賞受賞作が掲載されたのは2020年3月

『文学界』第74巻8号、2020.8月号 Z/910.5/B2  
特集：“危機”下の対話 / 新連載 綿矢りさ「激煌短命」

→候補作が掲載されたのは2020.5月号・6月号

『文芸』第59巻第3号、2020.秋 Z/910.5/B6  
特集：覚醒するシスターフッド / 非常時の日常 / 世界の作家は新型コロナ禍をどう捉えたか

→芥川賞受賞作が掲載されたのは2020年夏

## 地域

『孤塁 双葉郡消防士たちの3・11』 吉田 千亜／著 岩波書店 2020.1 LS369.31/Y17/2

東日本大震災と原発事故当時、双葉郡の消防士として懸命に活動に当たっていた方々がいます。その中の約70名によって語られたさまざまな苦難や葛藤を、筆者が詳細に綴った記録です。はっきりとした情報も届かず、他県消防隊の応援も得られない混乱の中、原子炉爆発に直面しながらも戦い続けた彼らは、いったい何を思っていたのか。「きっと特攻隊はこうだったのだろう」とまで感じるほど命をかけたその強さの中に、垣間見える恐怖や悲しみが深く胸に刺さる一冊です。

『あっくんとデコやしき』 八百板 洋子／文 垂石眞子／絵 福音館書店 2020.3 L726.7/Y2/2

福島県生まれの著者による郡山市の高柴デコ屋敷を舞台にした絵本です。妹が生まれてからお手伝いばかりで面白くないあっくん。今日は忙しくて泊まり込みで人形を作っている父さんへお弁当をとどけることを頼まれました。行き合った動物たちに八つ当たりしながらデコやしきへ向かいます。入口の戸を開けると薄暗くてしんとした棚にはたくさんの人形がならんでいます。そして…。